# 希代の名著「万葉人の技術」を後世に

## 「名誉員から一言」より「名誉員への一念」として

2021年4月22日の定時社員総会で名誉員に推挙いただいた。たいへん光栄なことではあるが、本会会員なら誰もがご存じの名誉員―例えば土光敏夫氏や島秀雄氏や幾多の大先生方に比すべくもなく、畏れ多い限りである。本コラムへの寄稿自体は有難いものの、ただし内容は「名誉員から一言」というより「名誉員への一念」として表現する方が我が意に沿う。今から37年前の1984年に名誉員に推挙された大先生、渡辺茂先生（東京大学、1918–1992）の著書「万葉人の技術」（日本書籍刊、1978年12月20日発行）について、この紙面をお借りしてご紹介したい。

## 希代の名著「万葉人の技術」

渡辺先生は極めて度量の広いお人柄だったそうで、研究対象も同様に極めて広かったと伺っている。私は、先生の謦咳に接したことはなく、たくさんの著作の中で熟読したのは唯一「万葉人の技術」に過ぎない。とはいっても、たった一冊の書でも、個人あるいは社会、さらに世界に大きく影響する力を有していることは、古今の名著に共通する。

本書の発行は先生が満60歳で定年退官される直前。帯には「東大工学部で機械工学を講義する著者が、エンジニアーの眼で『万葉集』全歌を洗い直し、生産・技術・衣食住にふれた400首をとりあげ、古代人のすぐれた知恵を解剖する異色の読みもの。」とある。万葉集は「令和」の元号が決まったときもブームになったので今さら説明するまでもなかろうが、7世紀前半から759年までの約130年間に詠まれた4500首あまりが全20巻に収録されている。私が本書を店頭でたまたま見つけたのは発行直後の1979年春、東工大の大学院修士2年生だった。東大機械には、こんな希代の書を上梓される途轍もない先生がおられるのだと度肝を抜かれた。

渡辺先生が膨大な万葉集をとことん読み込まれ、みずみずしい感受性で、心の動きも技術も深く考察して解説される一文一文に感動を覚えずにはいられない。ここでは目次をご覧いただくことで、その豊かな世界を想像していただこう。

第一章 生産の方法　農耕のつとめ／漁業はじまる／土木のちから／建築のたくみ／紡織のわざ／染色あざやか／火のいのり　第二章 生活の様式　玉と心／身をかざる／室をかざる／衣服さまざま／食べもののあじ／住まいのやすらぎ／楽器のひびき／武器のきびしさ　第三章 旅行の知恵　道ゆくたび／車のはじまり／船にいのちをかけて／馬のはたらき　第四章 自然と技術　動物をともとして／植物のいのち／鉱物をもとめて／物心身の技術

## 忘れられ、消えゆくことへの危惧から

このような名著でありながら、刊行から43年を経た今日、本書を知り記憶する日本人は残念ながらほとんどいないと思う。その理由の一つ目は、出版元の日本書籍が2004年に破産、また新会社である日本書籍新社（2002–2011）も消滅し、復刊の可能性が絶たれたことである。加えて、渡辺先生ご夫妻にはお世継ぎがいらっしゃらなかったため、おそらく著作権を承継する方もうやむやになった(1)ことが、本書（に限らず先生の全著作）が絶版状態にある二つ目の理由であろう。ために、万葉集の地元ともいえる奈良市図書館でさえ本書の所蔵はわずか1冊、古代の書が比較的多い京都市図書館でさえ所蔵なしという状況である。文学部のある大学の図書館はいざしらず、全国の公立図書館も同様であろう。

今日、売り上げ何十万部というベストセラーが続々と生まれてはまたたく間に消えていく出版業界であるが、一方で日本人にとってかけがえのない財産として後世に読み継いでいくべき書が、もともと発行部数もそれほど多くなく、世代交代ともに忘れられていくのは全く惜しいことである。とりわけ、本書の場合、出版社は既になく著作権承継もおそらくない状態で消えゆくことは必定、と私は危惧した。

そこで、私自身が京都大学の定年を間近に控えていた2020年8月に一念発起し、本書をいったんワープロで整理しなおした。ただし、著作権は渡辺先生のご逝去後70年間保護されるので、このままでは現在から42年後の2063年まで何ともできないと思っていた。しかし、この拙稿の初稿を本会に提出したところ、編修委員から「著作権者不明等の場合の裁定制度（文化庁）」というのがあり、復刊可能性がなくもないことをご教示いただいた。私にとっては思いがけない吉報であり、我が国においても学術団体が名著の絶版を救済する取り組み(2)を強く望む次第である。

(1) 私はここ数年間、渡辺先生の本を過去に発行していたほとんどの出版社、さらに東大や学長をされた都立科学技術大（後に首都大学東京）の同窓会や事務局、そして渡辺先生の高弟の先生方にも問い合わせたものの、連絡先情報については皆無。唯一、本会の古い名簿から旧宅のご住所が判明し、旧宅の向かいで生前に親しくしておられた方から、渡辺先生ご夫妻の思い出話を伺えたに過ぎない。
(2) 1908年にSpringer社から発刊されたConrad MatschossのDie Entwicklung der Dampfmaschineを後にVDI-Verlagが復刊している実例があるそうである。

<名誉員>
吉田 英生
◎京都大学　名誉教授
◎専門：熱工学、エネルギー工学
◎ E-mail：sakura@hideoyoshida.com